

「跡」第38集の発刊によせて

仙台市小学校教育研究会理科部会
会 長 飯 村 俊 幸

今年も会員の皆様のご協力で「跡」第38集が発行されることとなりました。

仙台市小学校教育研究会理科部会の活動もまとめの時期を迎えました。平成25年度活動も、研修部・事業部の担当となられた先生方や諸行事に参加していただいた会員の皆様に支えられて、充実した活動をすることができました。会員の皆様のご支援・ご協力に改めて心より感謝申し上げます。

仙台市の理科研究会では、以前から授業研究を活動の大きな柱としてきました。今年度の研究主題を「科学する楽しさを体感できる子どもの育成 - 実感を伴った理解を目指して - 」として、「参加者の明日の授業に役立つ授業研究」を合い言葉に、年8コマの実践授業を目指して取り組んで来ました。本年度は、年6コマの提案授業となりました。

授業を引き受けて下さった先生方が若く、(2年3年目の先生もいらっしゃいました)皆さんが積極的に手を挙げて大変意欲的に授業研究を行っていただきました。これは本年度の大きな特徴だったと思います。

ここ数年、仙台市の理科部会の研究授業は、先進的な授業づくりを行っている先生がその取組の様子を提案する形から、授業者の先生を中心にして年齢経験を問わずみんなで楽しくひとつの授業を作っていこうという形が定着してきているように思います。実際に現場で理科の指導をしていると、一つの単元について広く教材を探してみたり、深く授業の流れを考えることが難しくなってきました。また、理科の授業参観をする機会も少なくなってきました。理科部会の授業研究は、授業だけでなく事前・事後の検討会を通して参加した先生方一人一人の授業づくりができる機会となっています。参加した皆さんは、それぞれの学校に授業研究で得たおみやげを持ち帰って自分の学級で工夫した授業を行っていると思います。このようにして、児童にとって楽しく分かる理科の授業を市内に広めて行くのも我々理科部員の大切な使命だと考えています。

検討会終了後、残った先生方が教材についての熱心な情報交換を和やかにしている姿が、今年もたくさんの会場で見られました。理科部の先生方は本当に理科が好きなんだなと感じました。

年2回の授業研究についての記録を「跡」にまとめていただきました。また、指導案は理科研究会のWebページにも掲載しました。10月の授業をご提供いただきました太白小幡雄一先生、南中山小紺野正敏先生、東長町小小島周一先生、並びに2月にご提供いただきました古城小三浦裕介先生、広瀬小早坂将和先生、作並小庄司祐太先生に心より感謝申し上げます。

また、本年度も仙小理科研のWebページの充実を図っており、授業研究会の予定や指導案等 を載せて、ふだんの授業に使えるようにしています。

(<http://www.sendai-c.ed.jp/~shorika/>)

こちらも、ご活用いただきたいと思います。

最後になりましたが、理科部会の活動を支えていただきました会員の皆様に感謝申し上げます、あいさつといたします。